



適期の田植え、苗作りに向け、塩水選・消毒、浸漬作業の計画を立てましょう。
育苗予定地は早めの除雪をし、ハウスでは早めにビニールを張って地温上昇に努めましょう。

1. 今後の作業スケジュール（目安）

5月20日頃を田植えと想定した場合の目安です。

テクリードC使用の場合（浸漬前に種子消毒）

月日	3月27日	3月28日～4月12日	4月10日	4月13日	4月15日	5月20日
作業	塩水選	種子消毒 (テクリードC)	浸漬	床土作り	催芽	播種

2. 塩水選

充実した種もみを選別する上でとても大切な作業です。
発芽率向上、健苗育成のために実施しましょう。
塩水選を行ったあとは、すぐに種もみを水でよく洗いましょう。

種もみ	比重	塩の量(水 10ℓ当たり)
うるち	1.13	2.1kg
もち	1.08	1.2kg

3. 種子消毒

種もみの表面には様々な病原菌が付着しています。しっかり消毒し、病気の発現を防ぎましょう。
使用時期は、「今後の作業スケジュール」を参考にしましょう。

薬剤名	低濃度浸漬法	使用量
テクリードC フロアブル	200 倍液に 24 時間浸漬	薬 100ml/水 20ℓで種籾 20kg 消毒できます



「はれわたり」の注意点

種子消毒や浸漬は、水温が
10℃以下にならないように
管理しましょう！

水温が5℃程度の低温になると、
10℃で行ったものと比べて、催
芽のハト胸割合が著しく低くなり
ます。
また、他の品種よりもハト胸状態
になるまでに時間がかかります。

4. 浸漬

～種もみも呼吸をしています～

- 浸漬日数：2週間程度(日平均水温の積算で100℃以上)を目安にしましょう。
水温は10℃以下にならないように努めましょう。
浸漬期間が不十分だと、出芽不良や出芽遅れの原因となります。
- 水の交換：種子消毒剤の効果を高めるため最初の2日間は行わないで、
それ以降は3日に1回程度行いましょう。
種もみ袋は、上下の入れ替えも行い、水温差が生じないようにしましょう。

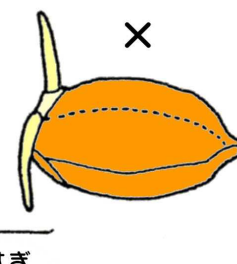
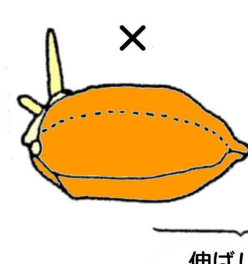
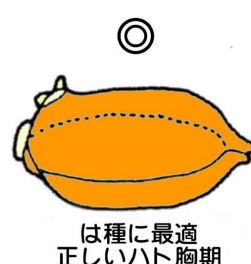
5. 床土の準備

～10a 当たり、苗35枚を目安に準備しましょう～

床土名	資材名	1箱当たりの 使用量	1袋(本)でできる箱数	使用方法・注意点など
山土 の場合	サイコー11号	20g	250箱/1袋(5kg)	
	とかすだけ	1ℓ	500箱/1袋(10kg)	水500ℓに1袋を溶かしてかん注する肥料です。
	どちらか ナエファイン粉剤	8g	125箱/1袋(1kg)	土壌混和。苗立枯病対策。
	ナエファインフロアブル	1ℓ	200箱/1本(100ml) ※2,000倍	播種時かん注。苗立枯病対策。
人工培土 の場合	無肥料培土	床土 2.7kg 覆土 0.8kg	約 5.7箱/1袋	無肥料ですので、必ず肥料を混合して下さい。
	苗の土	床土 2.1kg 覆土 1.2kg	約 6箱/1袋	
	軽量培土	床土 1.0kg 覆土 0.75kg	約 11箱/1袋	
	どちらか ナエファイン粉剤	6g	166箱/1袋(1kg)	土壌混和。苗立枯病対策。
	ナエファインフロアブル	1ℓ	200箱/1本(100ml) ※2,000倍	播種時かん注。苗立枯病対策。

6. 催芽及び播種

- 催芽温度…約30～32℃で16～20時間程度。
- ハト胸程度とし、芽や根の伸ばしすぎは、播種作業時に
折れ、生育の遅れの原因となります。
- 播種量…1箱当たり催芽籾で120g程度にしましょう。
厚播きは、生育不良やムレ苗の要因となります。



「はれわたり」の注意点

催芽は種籾の半分以上がハト胸状態になるまで確実にいきましょう！
ハト胸状態が低いまま播種すると、他の品種よりも出芽が不ぞろいになります。